



TOYOTA BOSHOKU

東証プライム 証券コード 3116

2022年度（2023年3月期）

第1四半期 決算説明会

開催日：2022年7月29日

目次

1. 2022年度第1四半期 決算状況
2. 2022年度 通期業績予想
3. 参考情報

目次

1. 2022年度第1四半期 決算状況

2. 2022年度 通期業績予想

3. 参考情報

- ◆本日は、お忙しい中、
当社の2022年度 第1四半期 決算説明会にご出席いただきまして、ありがとうございます。
- ◆はじめに、2022年度 第1四半期の決算状況、
続いて、通期の業績予想をご説明させていただきます。
- ◆それでは、2022年度 第1四半期の決算状況について
ご説明いたします。

1-1) 2022年度第1四半期 決算状況 連結決算概要

(億円)

	21年度 第1四半期実績		22年度 第1四半期実績		増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上収益	3,542	100.0%	3,503	100.0%	△39	△1.1%
営業利益	177	5.0%	34	1.0%	△143	△80.9%
税引前利益	194	5.5%	75	2.2%	△119	△61.3%
当期利益*	121	3.4%	△13	△0.4%	△135	-

*親会社の所有者に帰属する当期利益

1株当たり四半期利益	65円27銭	△7円38銭		
為替レート	USドル	109円	130円	+21円
	1-円	132円	138円	+6円

売上収益

新型コロナウイルス感染症再拡大や部品供給問題等に起因する生産台数の減少などにより減収

営業利益

将来に向けた投資の増加に加え、減産影響や原材料・輸送費の高騰など市況変動等の外部環境悪化により減益

スクリプト

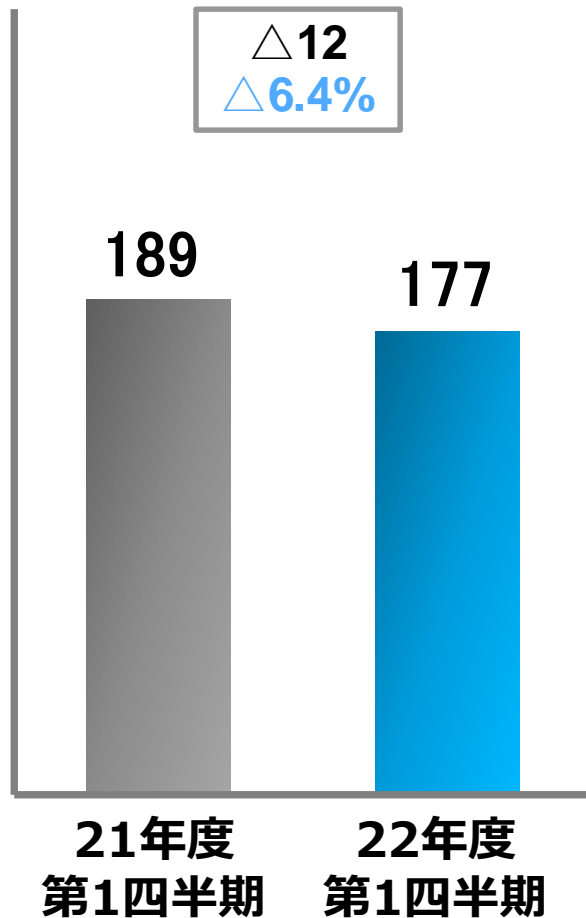
- ◆ 売上収益は、前期比39億円減少の3,503億円。
- ◆ 営業利益は、前期比143億円減益の34億円となりました。
- ◆ 税引前利益は、前期比119億円減益の75億円。
- ◆ 親会社の所有者に帰属する当期利益は、
前期比135億円減益の13億円の赤字となりました。

- ◆ 為替レートは、1ドル130円、1ユーロ138円でございます。
なお、前年同期からの為替影響につきましては、
売上収益でプラス274億円、営業利益でプラス10億円
増加する方向に効いております。

1-2) 2022年度第1四半期 決算状況 地域別シート生産台数

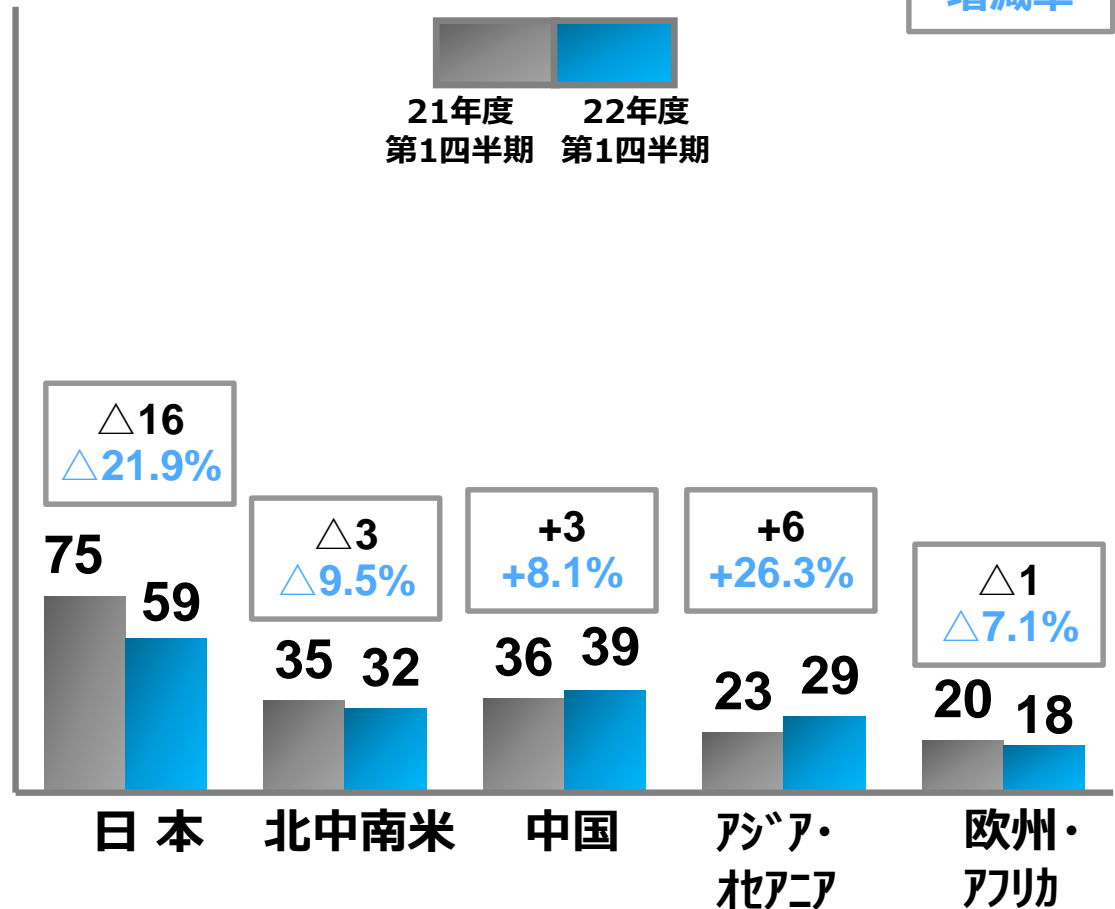
連結全体

(万台)



セグメント別

(万台)



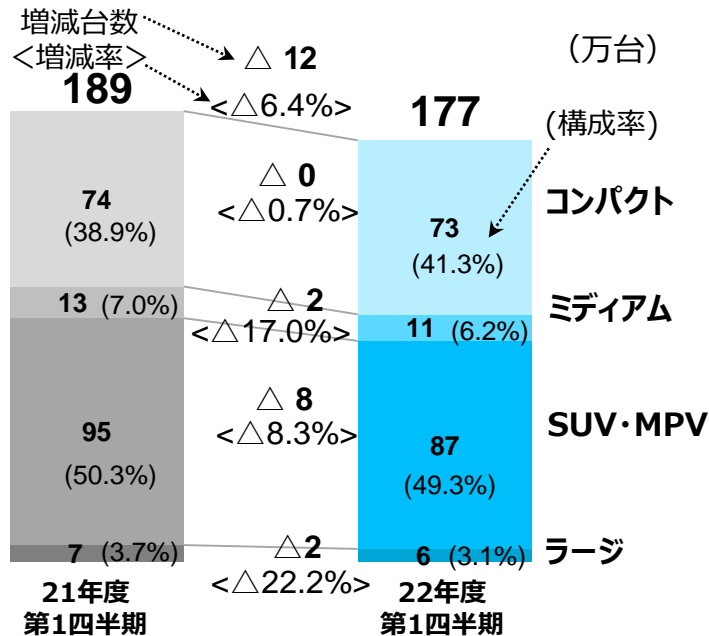
スクリプト

- ◆ 続きまして、私どもの主力製品であるシートの生産台数ですが、連結全体では、前期比マイナス12万台の177万台となりました。
- ◆ 地域別は、ご覧の通りとなっておりますが、詳細は、地域別のページにてご説明いたします。

1-3) 2022年度第1四半期 決算状況 連結 売上収益・営業利益

新製品効果や合理化など増益要因はあるものの、減産影響に加え
 原材料や輸送費の高騰など外部環境悪化、諸経費の増加などにより減益

台数・車種構成の変化



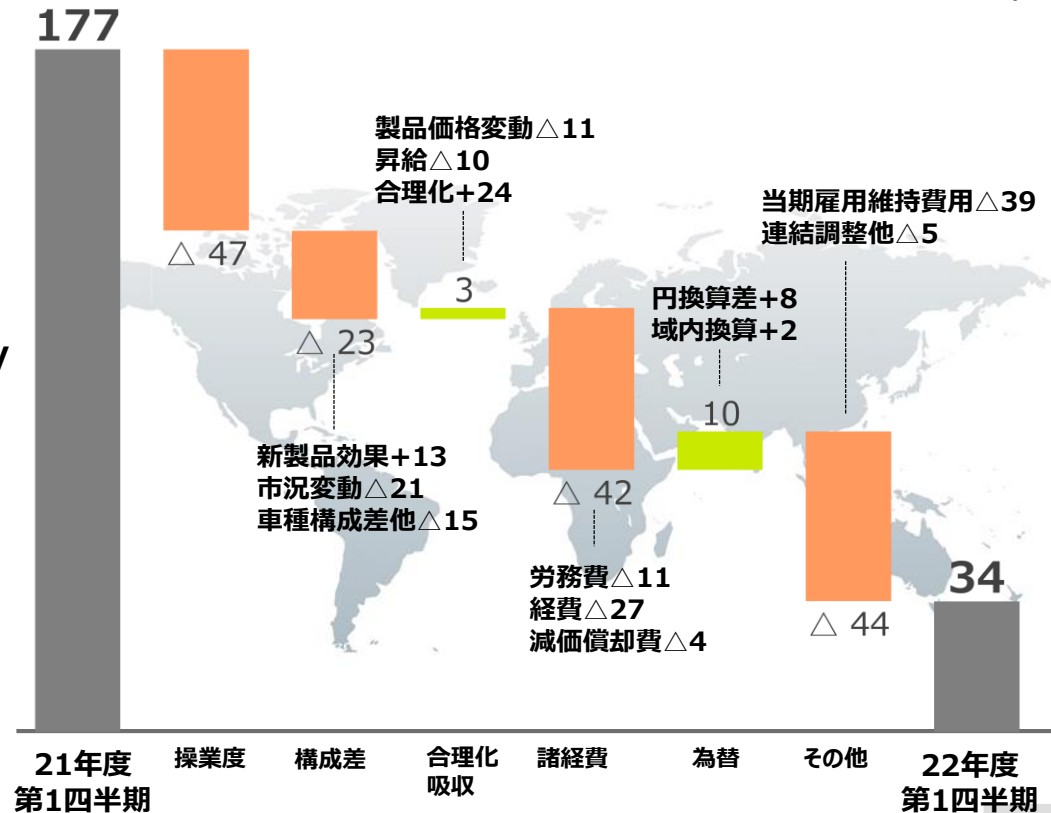
当期の経営成績

(億円)

	21年度1Q	22年度1Q	増減
売上収益	3,542	3,503	△ 39
営業利益	177	34	△ 143
営業利益率	5.0%	1.0%	-

営業利益の増減解析 (前期比)

(億円)



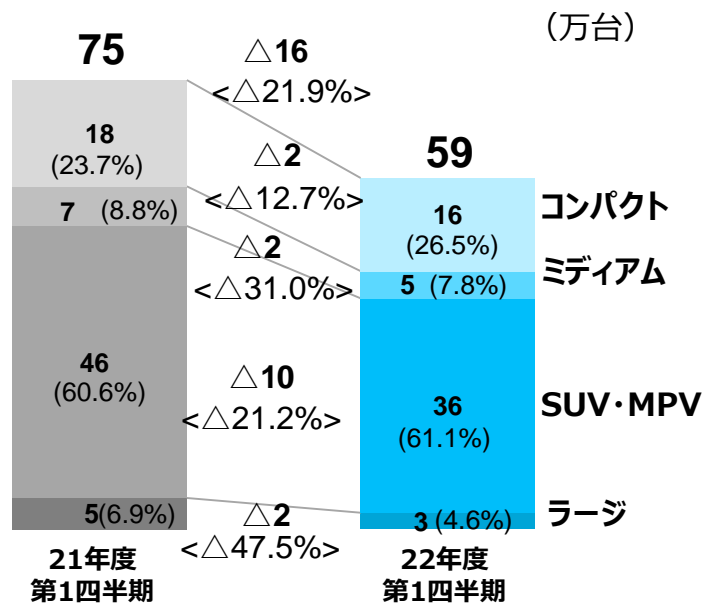
スクリプト

- ◆次に、連結の業績についてご説明いたします。
- ◆台数ですが、前期比マイナス12万台の177万台となりました。
- ◆売上収益は、前期比39億円減少の3,503億円。
- ◆営業利益は、
新製品効果や合理化などの増益要因はありますが、
減産影響に加え、原材料や輸送費の高騰など外部環境悪化、
諸経費の増加などにより、143億円減益の34億円となりました。

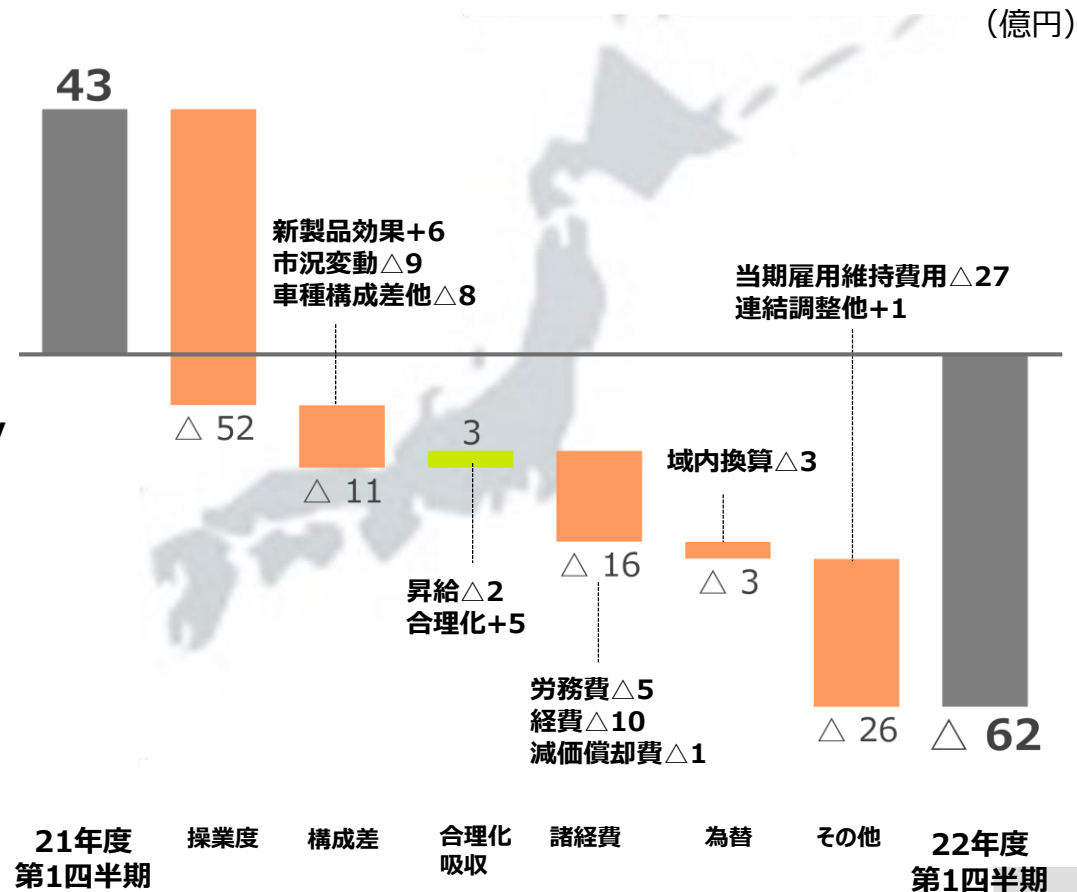
1-3) 2022年度第1四半期 決算状況 日本 売上収益・営業利益

新製品効果による増益要因はあるものの、部品供給問題等による減産影響に加え、雇用維持費用や諸経費の増加により減益

台数・車種構成の変化



営業利益の増減解析 (前期比)



当期の経営成績

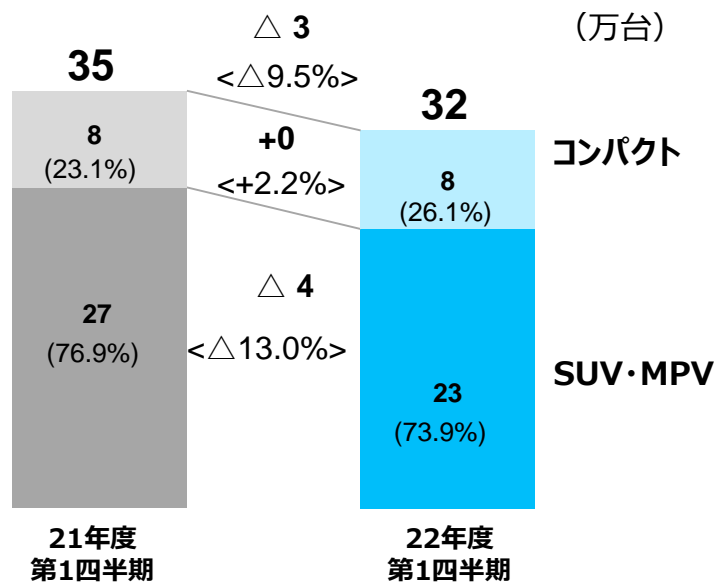
	21年度1Q	22年度1Q	増減
売上収益	1,885	1,505	△ 379
営業利益	43	△ 62	△ 105
営業利益率	2.3%	△ 4.2%	-

- ◆次に、日本ですが、
- ◆台数は、前期比マイナス16万台の59万台となりました。
- ◆売上収益は、前期比379億円減少の1,505億円。
- ◆営業利益は、
新製品効果による増益要因はありますが、
部品供給問題等による減産影響に加え、
雇用維持費用や諸経費の増加により、
105億円減益の62億円の赤字となりました。

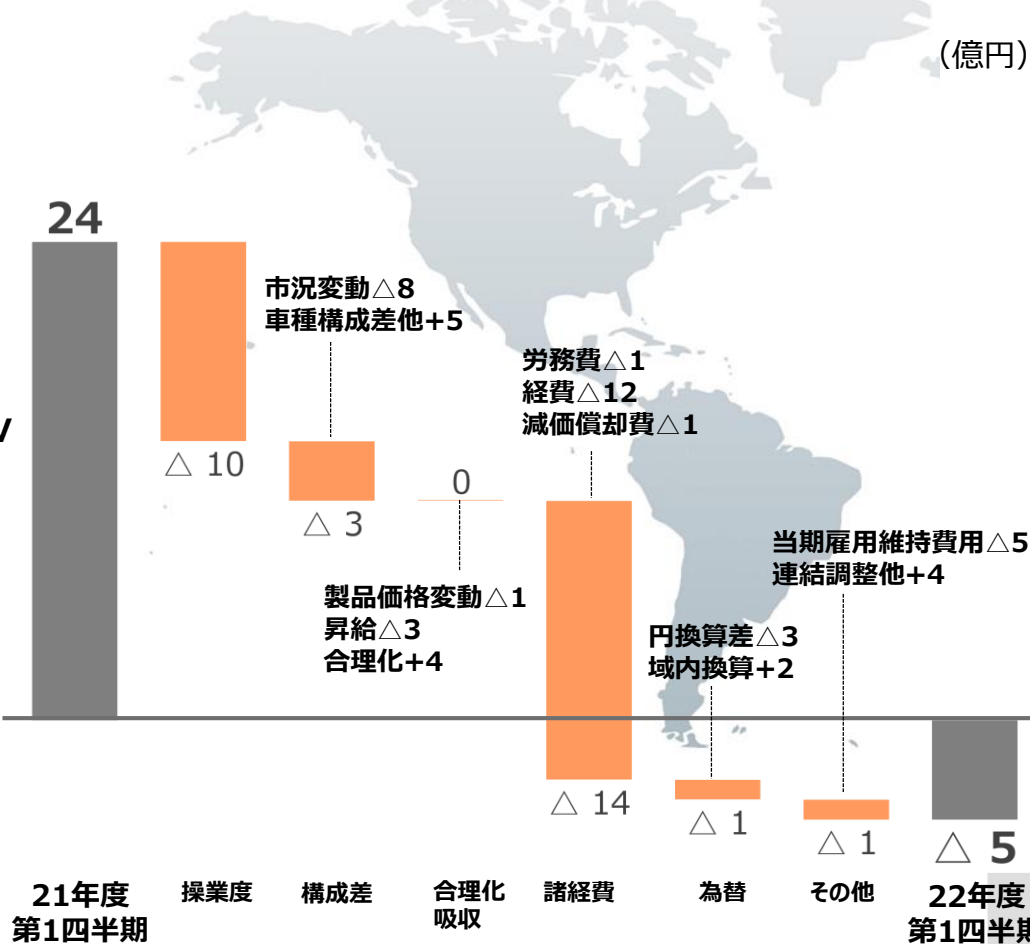
1-3) 2022年度第1四半期 決算状況 北中南米 売上収益・営業利益

部品供給問題等による減産影響に加え、
原材料や輸送費の高騰、諸経費の増加などにより減益

台数・車種構成の変化



営業利益の増減解析 (前期比)



当期の経営成績

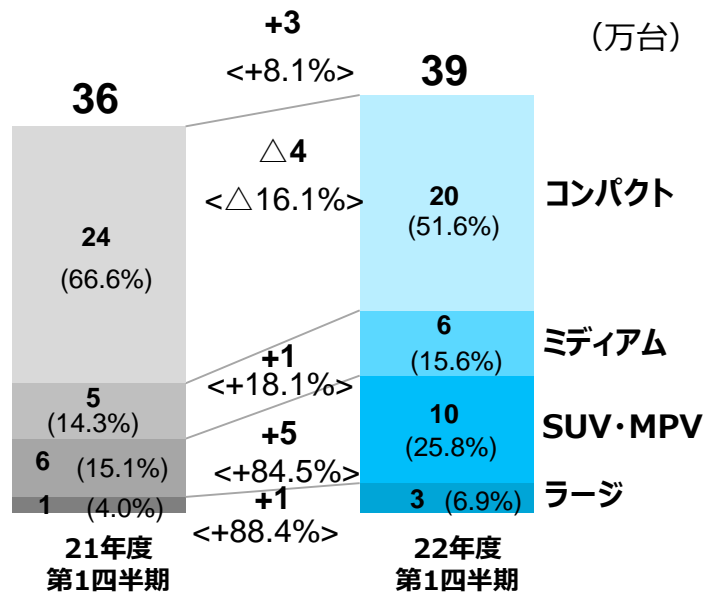
	21年度1Q	22年度1Q	増減
売上収益	786	896	109
営業利益	24	△5	△29
営業利益率	3.1%	△0.6%	-

- ◆次に、北中南米ですが、
- ◆台数は、前期比マイナス3万台の32万台となりました。
- ◆売上収益は、前期比109億円増加の896億円。
- ◆営業利益は、
部品供給問題等による減産影響に加え、
原材料や輸送費の高騰、諸経費の増加などにより、
29億円減益の5億円の赤字となりました。

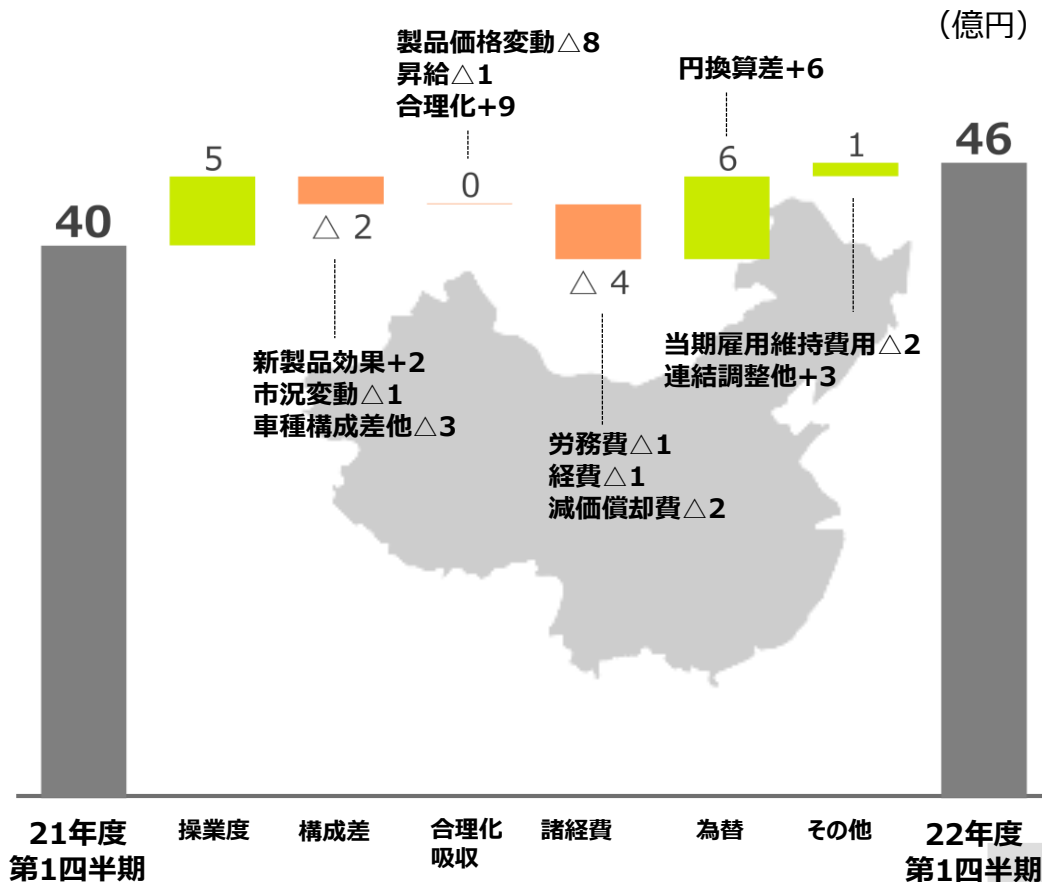
1-3) 2022年度第1四半期 決算状況 中国 売上収益・営業利益

上海ロックダウンによる稼働停止などの減益要因はあるものの、
新車投入による増産効果や為替の影響などにより増益

台数・車種構成の変化



営業利益の増減解析 (前期比)



当期の経営成績

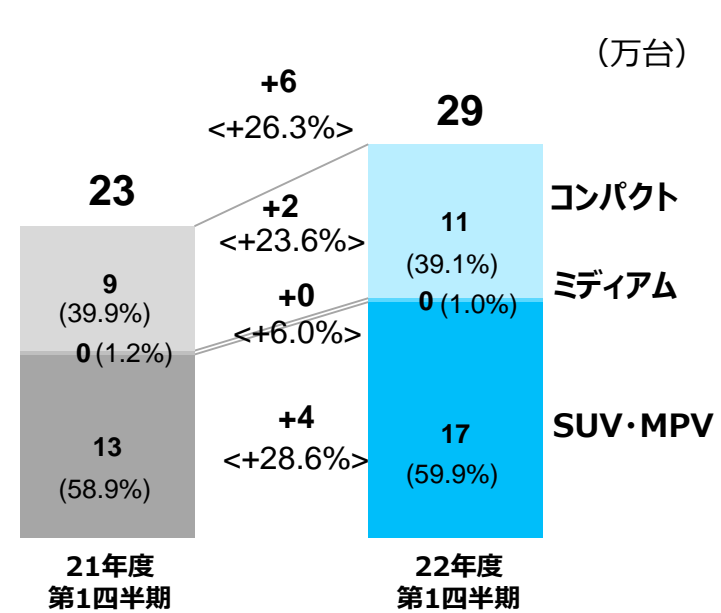
	21年度1Q	22年度1Q	増減
売上収益	445	595	149
営業利益	40	46	6
営業利益率	9.0%	7.8%	-

- ◆次に、中国ですが、
- ◆台数は、前期比プラス3万台の39万台となりました。
- ◆売上収益は、前期比149億円増加の595億円。
- ◆営業利益は、
上海ロックダウンによる稼働停止などの減益要因はありますが、
新車投入による増産効果や為替の影響などにより、
6億円増益の46億円となりました。

1-3) 2022年度第1四半期 決算状況 アジア・セアニア 売上収益・営業利益

原材料の高騰や諸経費の増加などの減益要因はあるものの、増産効果や合理化などにより増益

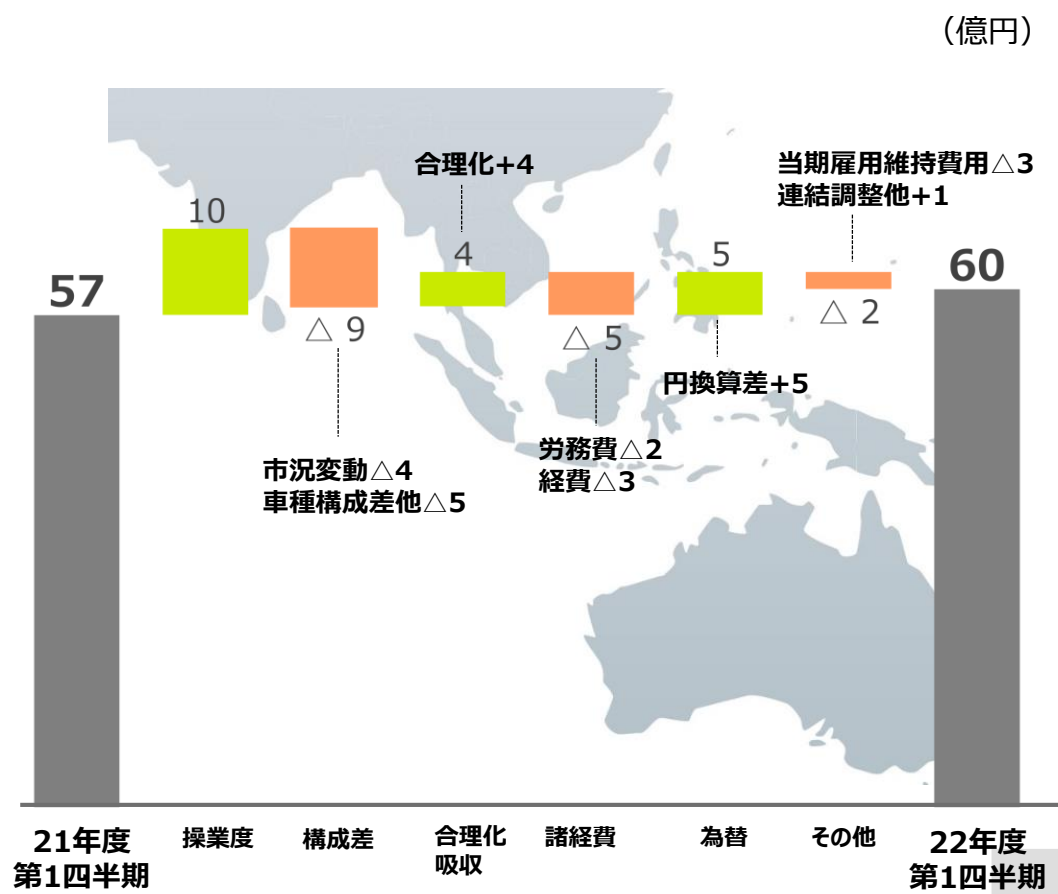
台数・車種構成の変化



当期の経営成績

	21年度1Q	22年度1Q	増減
売上収益	417	525	108
営業利益	57	60	3
営業利益率	13.8%	11.6%	-

営業利益の増減解析 (前期比)



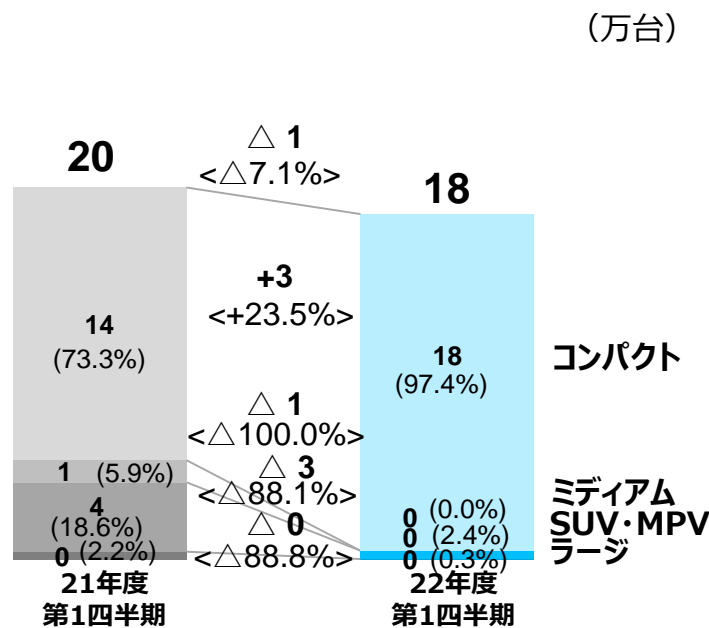
スクリプト

- ◆次に、アジア・オセアニアですが、
- ◆台数は、前期比プラス6万台の29万台となりました。
- ◆売上収益は、前期比108億円増加の525億円。
- ◆営業利益は、
原材料の高騰や諸経費の増加などの減益要因はありますが、
増産効果や合理化などにより、3億円増益の60億円となりました。

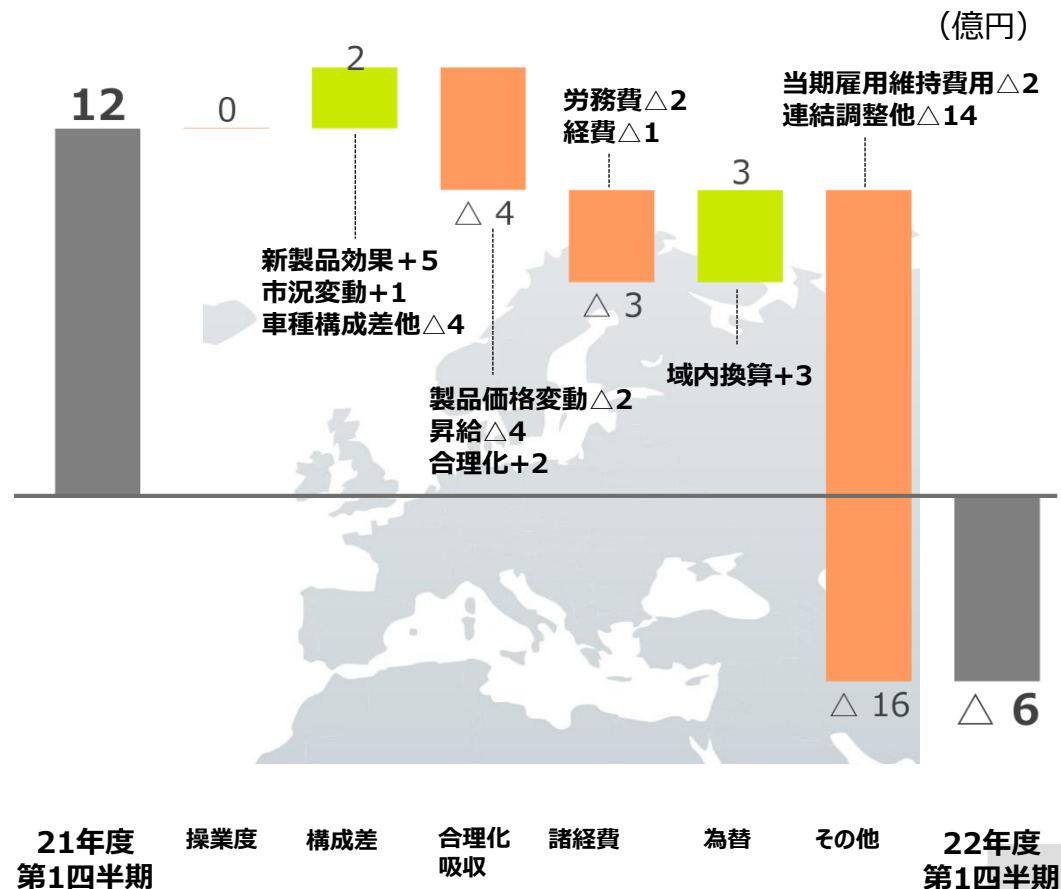
1-3) 2022年度第1四半期 決算状況 欧州・アフリカ 売上収益・営業利益

新製品効果による増益要因はあるものの、
欧州の状況に伴う稼働停止や諸経費の増加などにより減益

台数・車種構成の変化



営業利益の増減解析 (前期比)



当期の経営成績

(億円)

	21年度1Q	22年度1Q	増減
売上収益	232	216	△ 15
営業利益	12	△ 6	△ 19
営業利益率	5.6%	△ 2.9%	-

スクリプト

- ◆次に、欧州・アフリカですが、
- ◆台数は、前期比マイナス1万台の18万台となりました。
- ◆売上収益は、前期比15億円減少の216億円。
- ◆営業利益は、
新製品効果による増益要因はありますが、
欧州の状況に伴う稼働停止や諸経費の増加などにより、
19億円減益の6億円の赤字となりました。

目次

1. 2022年度第1四半期 決算状況

2. 2022年度 通期業績予想

3. 参考情報

◆続いて、2022年度の業績予想についてご説明いたします。

2-1) 2022年度 通期業績予想 連結決算概要

(億円)

	21年度 通期実績		22年度 通期予想		増減		22年度通期予想 (当初公表)	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上収益	14,214	100.0%	15,700	100.0%	1,485	10.5%	15,700	100.0%
営業利益	602	4.2%	610	3.9%	7	1.2%	780	5.0%
税引前利益	645	4.5%	640	4.1%	△5	△0.8%	810	5.2%
当期利益*	392	2.8%	400	2.5%	7	1.9%	520	3.3%

*親会社の所有者に帰属する当期利益

1株当たり当期利益	210円15銭	214円09銭	278円34銭		
為替レート	USドル	112円	130円	+18円	115円
	1-0	131円	140円	+9円	130円

売上収益

コロナ感染症再拡大や部品供給問題等による減産リスクはあるものの、グローバルでの増産などにより増収となる見込み

営業利益

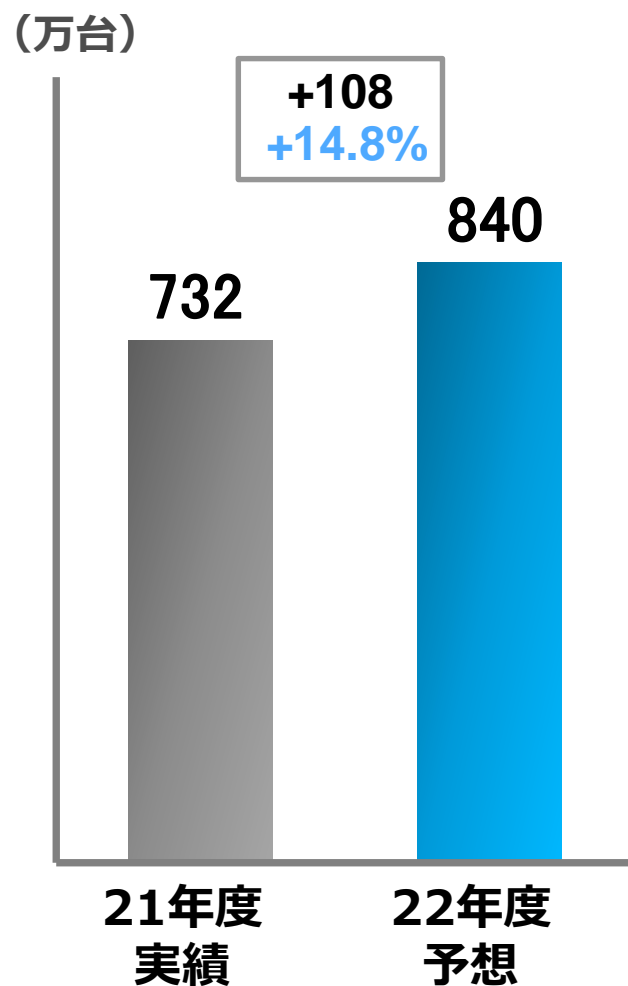
原材料や輸送費の高騰、諸経費の増加等による減益要因はあるものの、増産効果や原価企画活動による新製品効果などにより増益の見込み

スクリプト

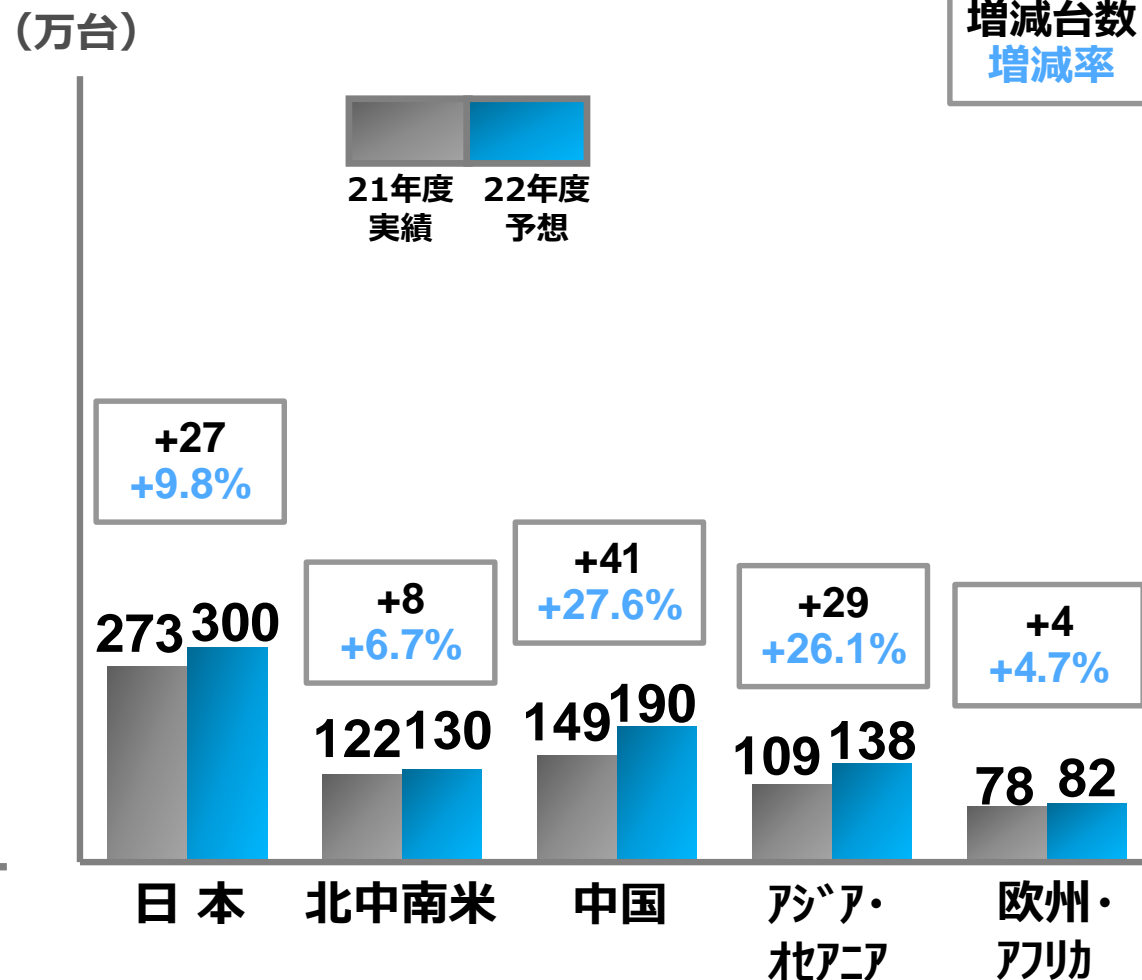
- ◆売上収益は、前期比1,485億円増加の1兆5,700億円と予想しております。
- ◆営業利益は、前期比7億円増益の610億円。
- ◆税引前利益は、前期比5億円減益の640億円。
- ◆親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期比7億円増益の400億円をそれぞれ予想しております。
- ◆為替レートは、1ドル130円、1ユーロ140円を前提としております。

2-2) 2022年度 通期業績予想 地域別シート生産台数

連結全体



セグメント別



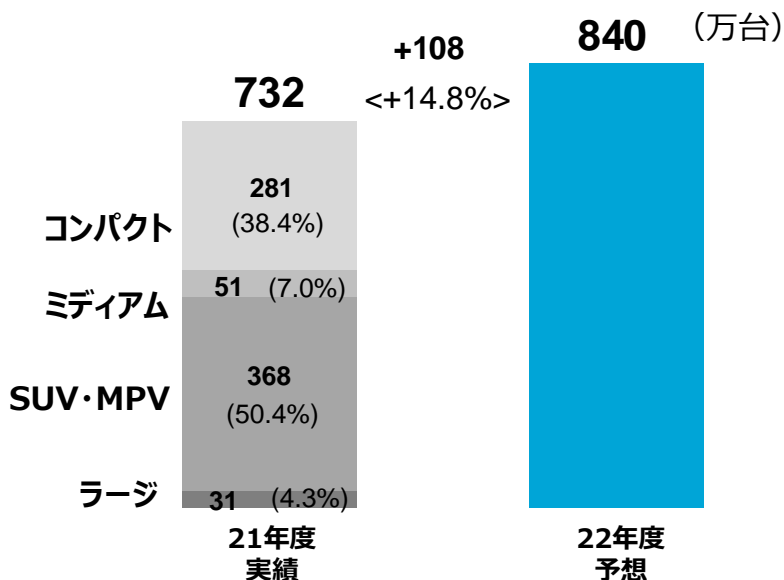
- ◆次に、シート生産台数ですが、
連結全体では、前期比プラス108万台の840万台と
予想しております。

- ◆地域別は、ご覧の通りとなっておりますが、
詳細は、地域別のページにてご説明いたします。

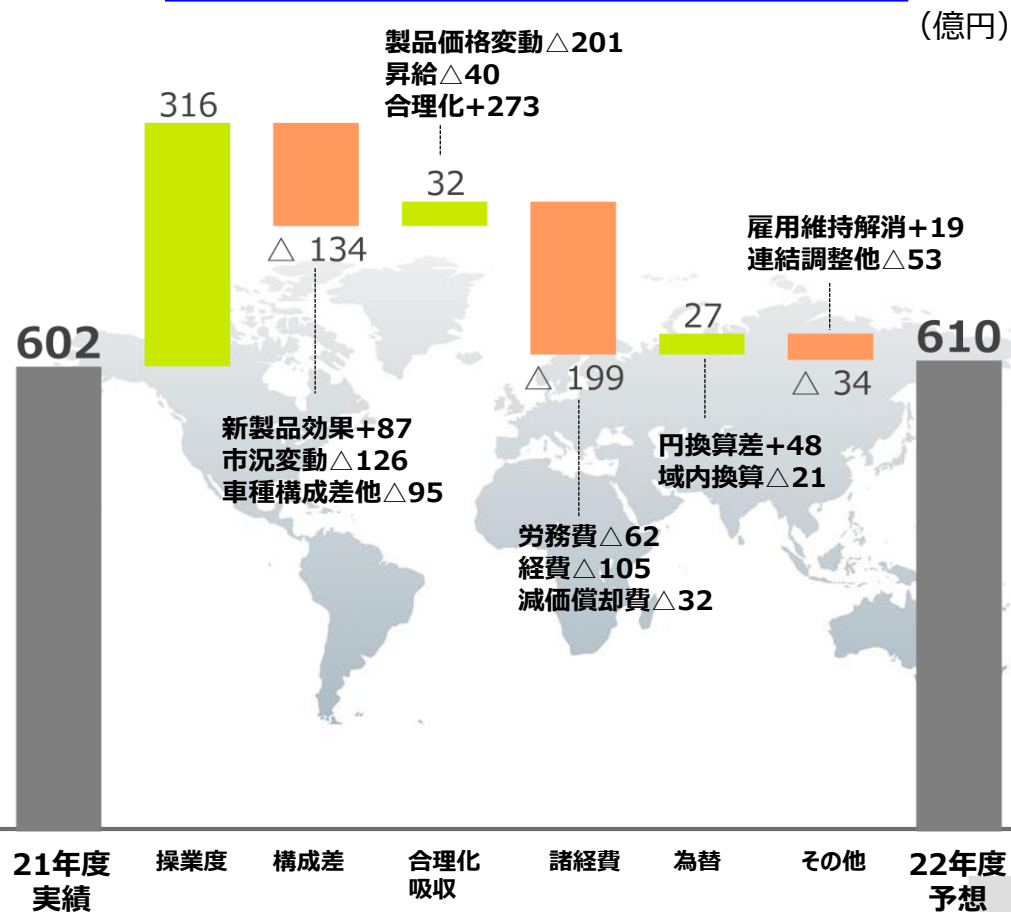
2-3) 2022年度 通期業績予想 連結 売上収益・営業利益

原材料や輸送費の高騰、諸経費の増加などによる減益要因はあるものの、増産効果や原価企画活動による新製品効果などにより増益の見込み

台数・車種構成の変化



営業利益の増減解析 (前期比)



当期の経営成績

(億円)

	21年度実績	22年度予想	増減
売上収益	14,214	15,700	1,485
営業利益	602	610	7
営業利益率	4.2%	3.9%	-

スクリプト

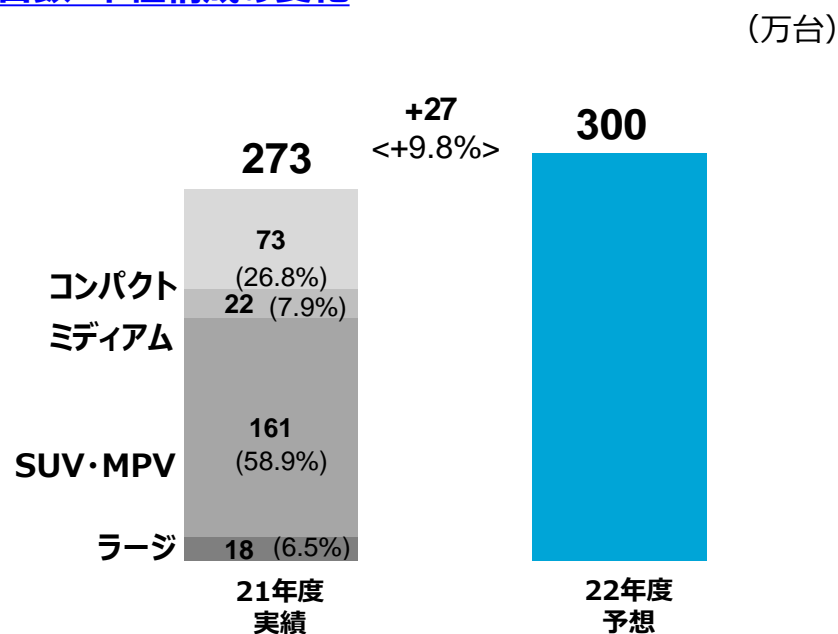
- ◆次に、連結の売上収益・営業利益についてご説明いたします。
- ◆台数・車種構成の変化ですが、部品供給問題などにより稼働状況が、一部不透明なため、前回同様台数のみの公表といたします。台数は前期比プラス108万台の840万台となる見通しです。
- ◆売上収益は、前期比1,485億円増加の1兆5,700億円。
- ◆営業利益は、
原材料や輸送費の高騰、
諸経費の増加などによる減益要因はありますが、
増産効果や原価企画活動による新製品効果などにより、
前期比7億円増益の610億円を想定しております。

2-4) 2022年度 通期業績予想 地域別 売上収益・営業利益

日本

増産・新製品効果などの増益要因はあるものの、原材料の高騰や車種構成の変化、諸経費の増加などにより減益の見込み

台数・車種構成の変化



当期の経営成績

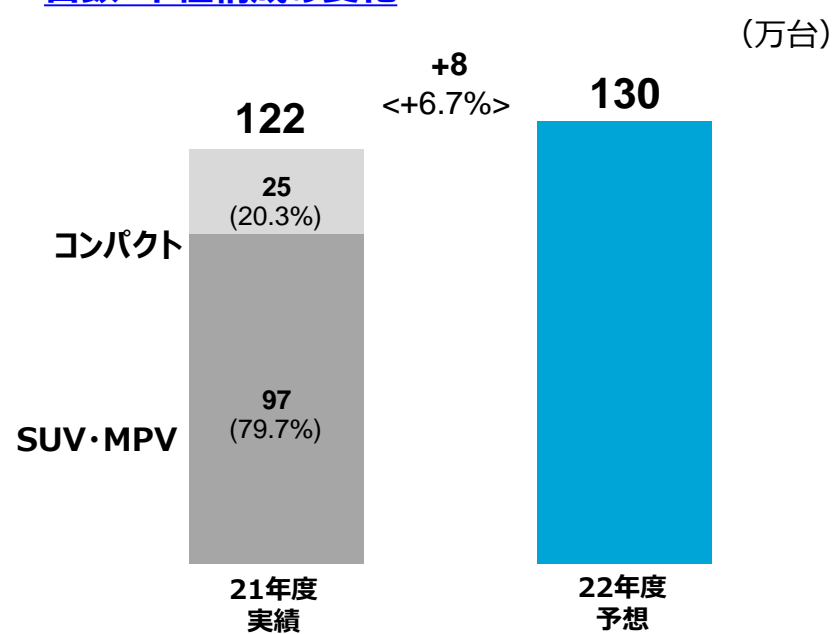
(億円)

	21年度実績	22年度予想	増減
売上収益	7,006	7,000	△6
営業利益	96	50	△46
営業利益率	1.4%	0.7%	-

北中南米

増産効果などの増益要因はあるものの、原材料や輸送費の高騰、諸経費の増加などにより減益の見込み

台数・車種構成の変化



当期の経営成績

(億円)

	21年度実績	22年度予想	増減
売上収益	3,177	3,700	522
営業利益	29	10	△19
営業利益率	0.9%	0.3%	-

スクリプト

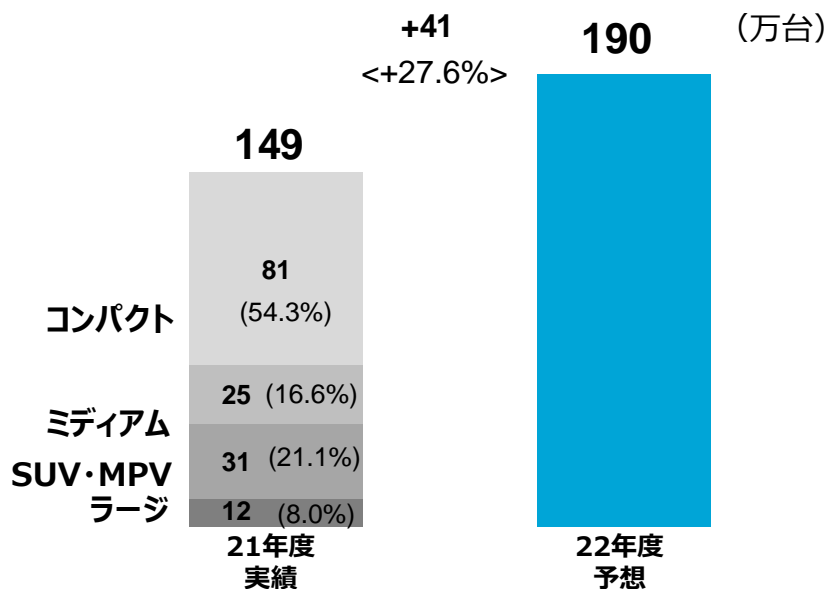
- ◆次に、地域別の業績予想をご説明いたします。
- ◆まず日本ですが、
台数は、前期比プラス27万台の300万台となる見通しです。
- ◆売上収益は、前期比6億円減少の7,000億円。
- ◆営業利益は、増産・新製品効果などの増益要因はありますが、
原材料の高騰や車種構成の変化、諸経費の増加などにより、
前期比46億円減益の50億円となる見込みです。
- ◆次に、北中南米ですが、
台数は、前期比プラス8万台の130万台となる見通しです。
- ◆売上収益は、前期比522億円増加の3,700億円。
- ◆営業利益は、増産効果などの増益要因はありますが、
原材料や輸送費の高騰、諸経費の増加などにより、
前期比19億円減益の10億円となる見込みです。

2-4) 2022年度 通期業績予想 地域別 売上収益・営業利益

中国

諸経費の増加などの減益要因はあるものの、
新車投入による増産効果などにより
増益の見込み

台数・車種構成の変化



当期の経営成績

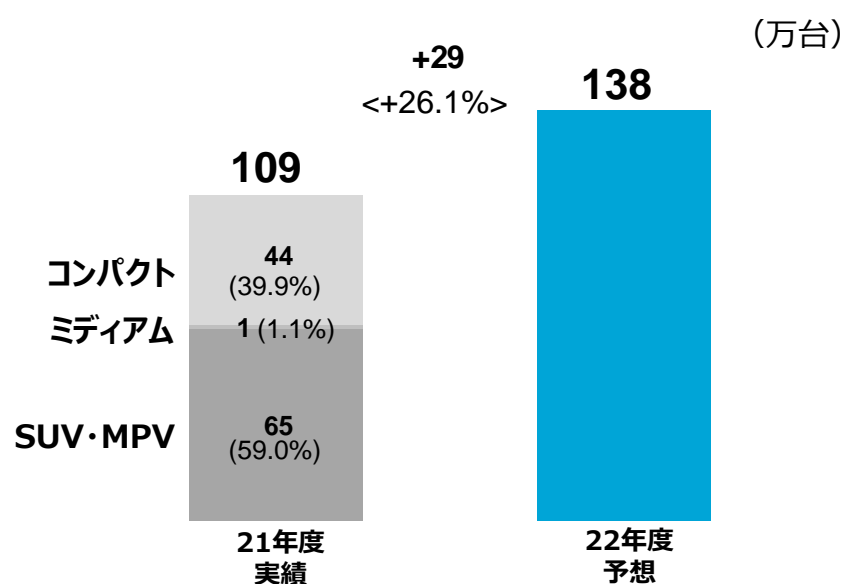
	21年度実績	22年度予想	増減
売上収益	2,121	2,900	778
営業利益	157	270	112
営業利益率	7.4%	9.3%	—

(億円)

アジア・セアニア

増産効果などによる増益要因はあるものの、
車種構成の変化や諸経費の増加などにより
前年並みの見込み

台数・車種構成の変化



当期の経営成績

	21年度実績	22年度予想	増減
売上収益	1,904	2,300	395
営業利益	267	270	2
営業利益率	14.0%	11.7%	—

(億円)

スクリプト

- ◆次に、中国ですが、
台数は、前期比プラス41万台の190万台となる見通しです。
- ◆売上収益は、前期比778億円増加の2,900億円。
- ◆営業利益は、諸経費の増加などの減益要因はありますが、
新車投入による増産効果などにより、
前期比112億円増益の270億円となる見込みです。

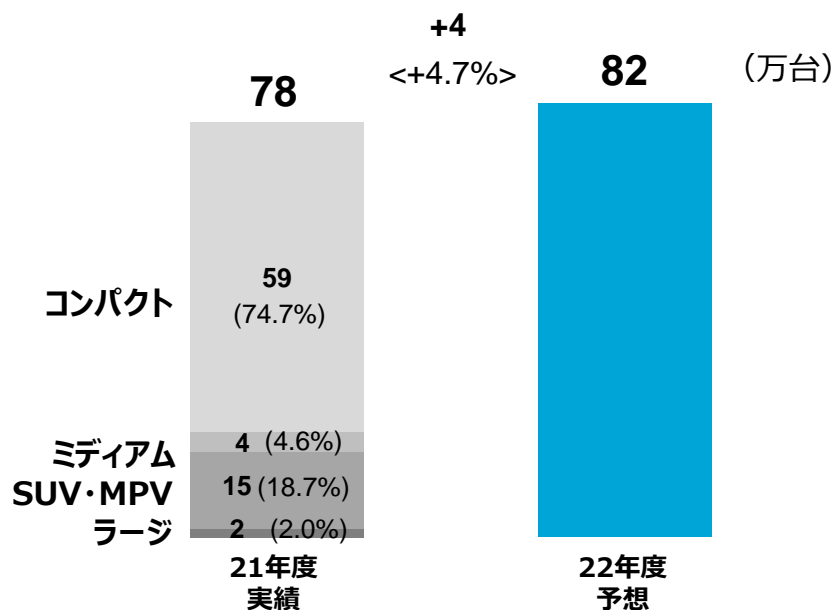
- ◆次に、アジア・オセアニアですが、
台数は、前期比プラス29万台の138万台となる見通しです。
- ◆売上収益は、前期比395億円増加の2,300億円。
- ◆営業利益は、増産効果などによる増益要因はありますが、
車種構成の変化や諸経費の増加などにより、
前年並みの270億円となる見込みです。

2-4) 2022年度 通期業績予想 地域別 売上収益・営業利益

欧州・アフリカ

増産効果などの増益要因はあるものの、
欧州の状況に伴う稼働停止や
諸経費の増加などにより減益の見込み

台数・車種構成の変化



当期の経営成績

(億円)

	21年度実績	22年度予想	増減
売上収益	962	900	△62
営業利益	53	10	△43
営業利益率	5.5%	1.1%	-

スクリプト

- ◆次に、欧州・アフリカですが、
台数は、前期比プラス4万台の82万台となる見通しです。
- ◆売上収益は、前期比62億円減少の900億円。
- ◆営業利益は、増産効果などの増益要因はありますが、
欧州の状況に伴う稼働停止や諸経費の増加などにより、
前期比43億円減益の10億円となる見込みです。

2-5) 2022年度 通期業績予想 地域別・上下別

売上収益

(億円)

	上期	下期	通期
日本	3,200	3,800	7,000
北中南米	1,800	1,900	3,700
中国	1,300	1,600	2,900
アジア・オセアニア	1,100	1,200	2,300
欧州・アフリカ	400	500	900
連結全体	7,300	8,400	15,700

営業利益

(億円)

	上期		下期		通期	
日本	△30	△0.9%	80	2.1%	50	0.7%
北中南米	0	0.0%	10	0.5%	10	0.3%
中国	120	9.2%	150	9.4%	270	9.3%
アジア・オセアニア	130	11.8%	140	11.7%	270	11.7%
欧州・アフリカ	△10	△2.5%	20	4.0%	10	1.1%
連結全体	210	2.9%	400	4.8%	610	3.9%

- ◆なお、上期・下期の売上収益・営業利益につきましてはご覧いただいた通りです。

2-6) 2022年度 通期業績予想 株主還元

- 長期安定的な配当を継続し、21年度比6円増配の年間70円を予定、今後の連結業績などを総合的に勘案し決定

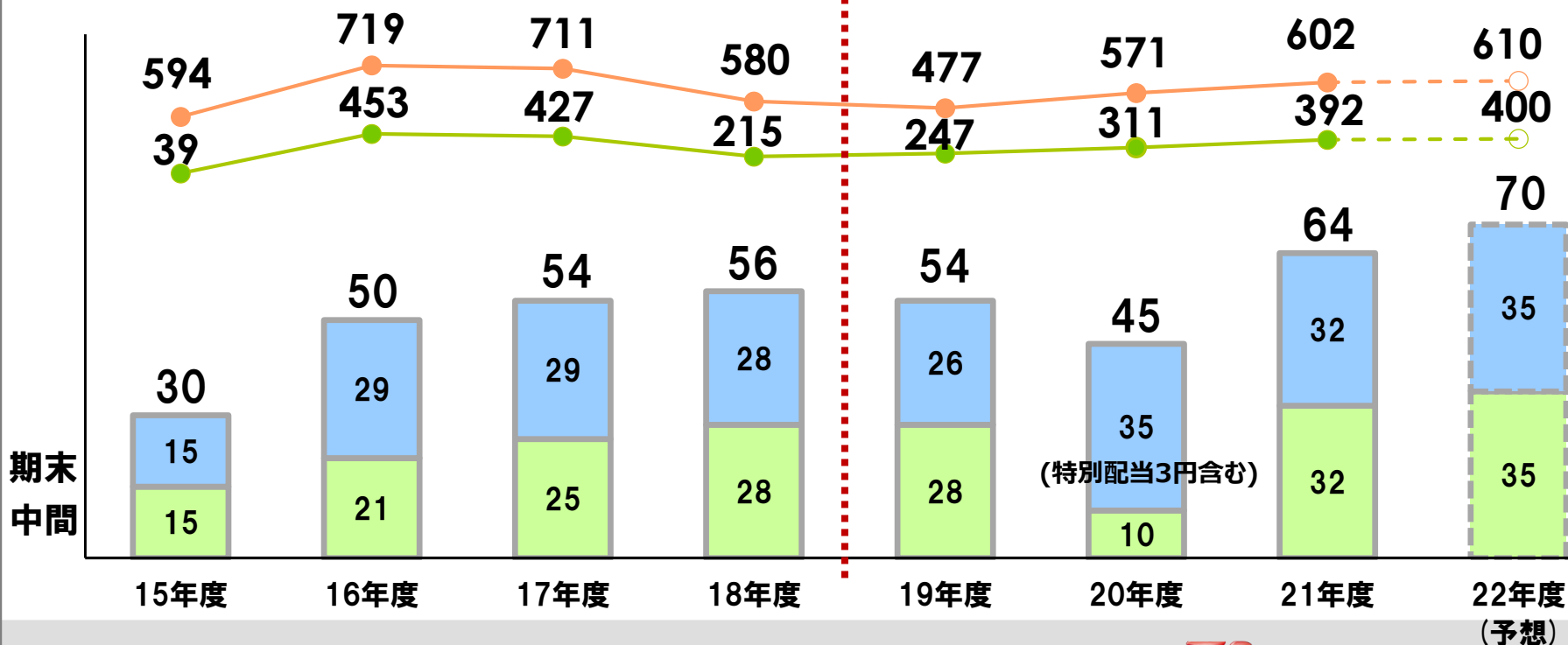
配当金および営業利益、当期利益の推移

■ 配当金(円)

● 営業利益(億円)

● 親会社の所有者に帰属する当期利益(億円)

日本基準 ◀▶ IFRS



- ◆次に、配当金でございますが、22年度につきましては、前年比6円増配の年間70円とさせていただく予定です。今後、長期安定的な配当継続の観点などから、連結業績などを総合的に勘案し決定いたします。

2-7) 2022年度第1四半期 総括

【第1四半期 実績】

- ・客先の**台数変動**に対して柔軟に対応しつつも、雇用維持費用を含めた減産影響や原材料及び輸送費の高騰、車種構成など**外部環境悪化**に加え、諸経費の増加などにより**減益**

【第2四半期以降の見通し】

- ・**需要回復**を見込む一方で、コロナ感染症再拡大や部品供給問題、更なる市況高騰リスクなど依然として**不透明な状況**

【通期予想】

- ・「将来に向けた投資」は計画通りに執行する一方、原価企画活動を通じ「稼ぐ力」を向上し**前年度比増益**を見込む
- ・**厳しい外部環境**が依然として続くと予想するが、新製品効果の最大化など、**収益確保を実施**

スクリプト

- ◆最後に、当第1四半期決算を総括させていただきます。
- ◆当第1四半期におきましては、客先の台数変動に対して柔軟に対応しつつも、雇用維持費用を含めた減産影響や原材料及び輸送費の高騰、車種構成など外部環境悪化に加え、諸経費の増加などにより減益となりました。
- ◆第2四半期以降につきましては、需要回復を見込む一方で、コロナ感染症再拡大や部品供給問題、更なる市況高騰リスクなど依然として不透明な状況が継続しております。
- ◆通期業績予想におきましては、「将来に向けた投資」は計画通りに執行する一方で、原価企画活動を通じ「稼ぐ力」を向上し、前年度比増益を見込んでおります。しかしながら、厳しい外部環境が依然として続くと予想しておりますので、新製品効果の最大化などに取り組む事で、収益確保に努めて参ります。

スクリプト

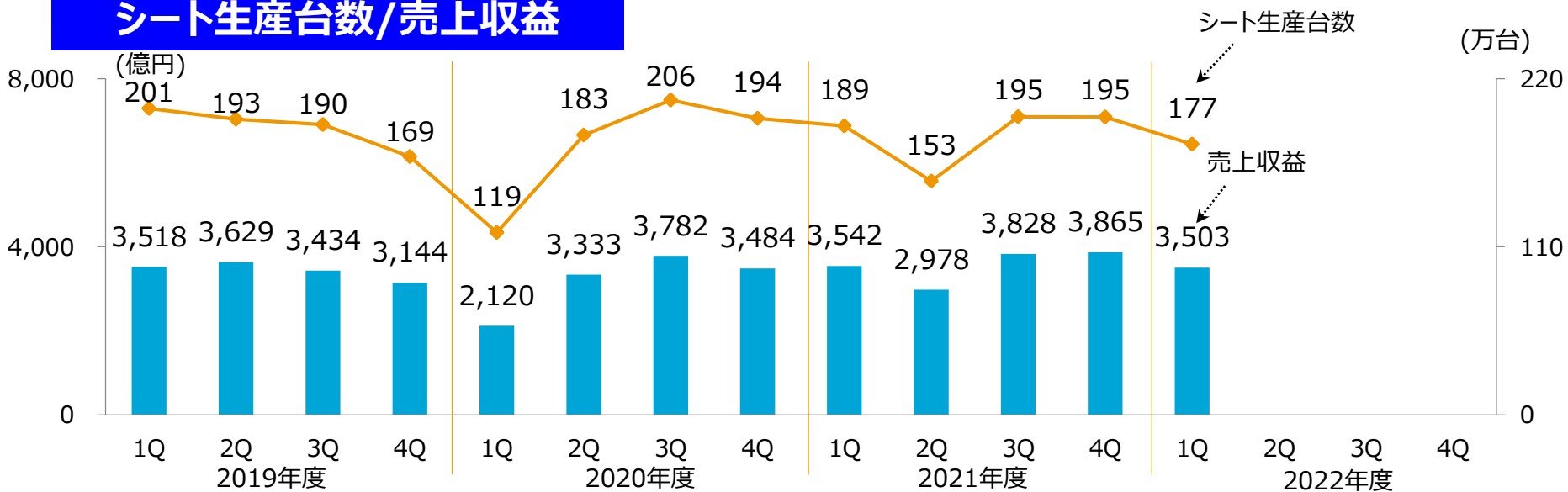
- ◆以上をもちまして、2022年度第1四半期決算の決算説明を終了させていただきます。ありがとうございました。

目次

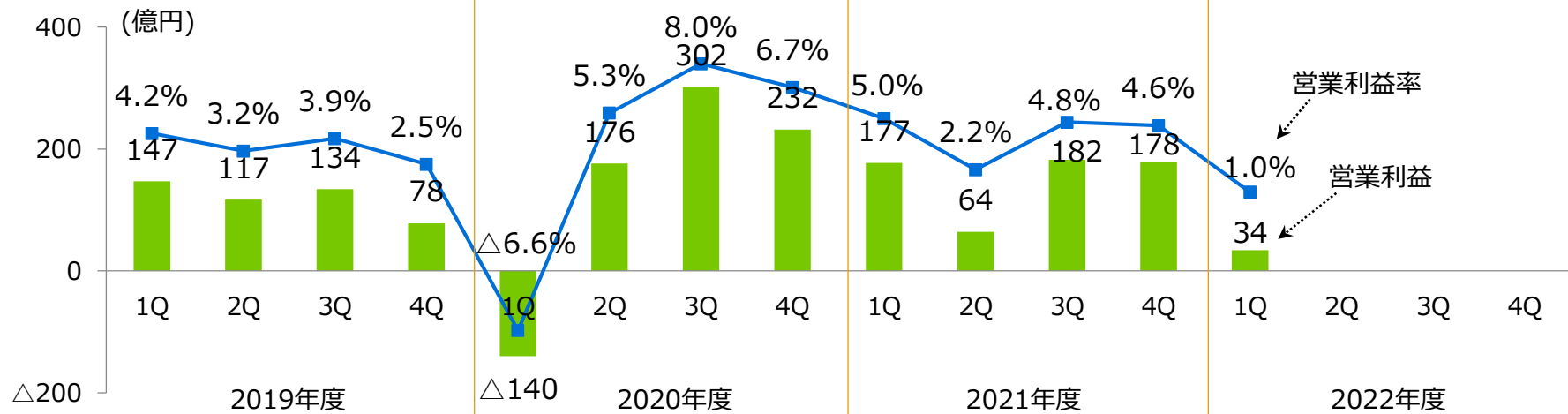
1. 2022年度第1四半期 決算状況
2. 2022年度 通期業績予想
3. **参考情報**

参考1) 四半期推移 連結 台数・売上収益・営業利益・営業利益率

シート生産台数/売上収益

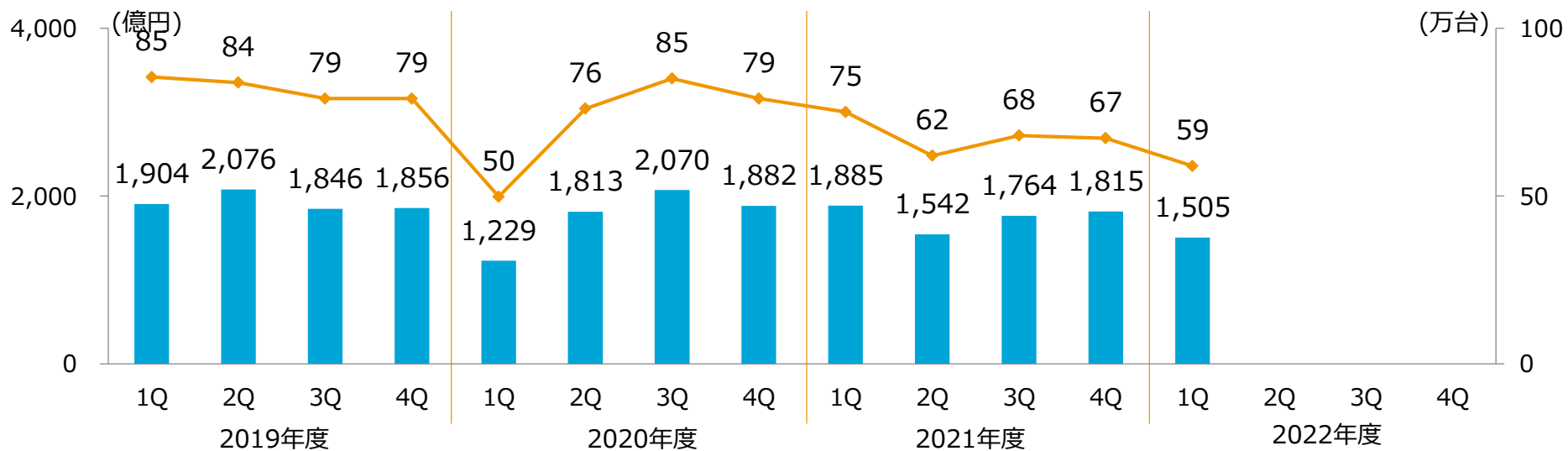


営業利益/営業利益率

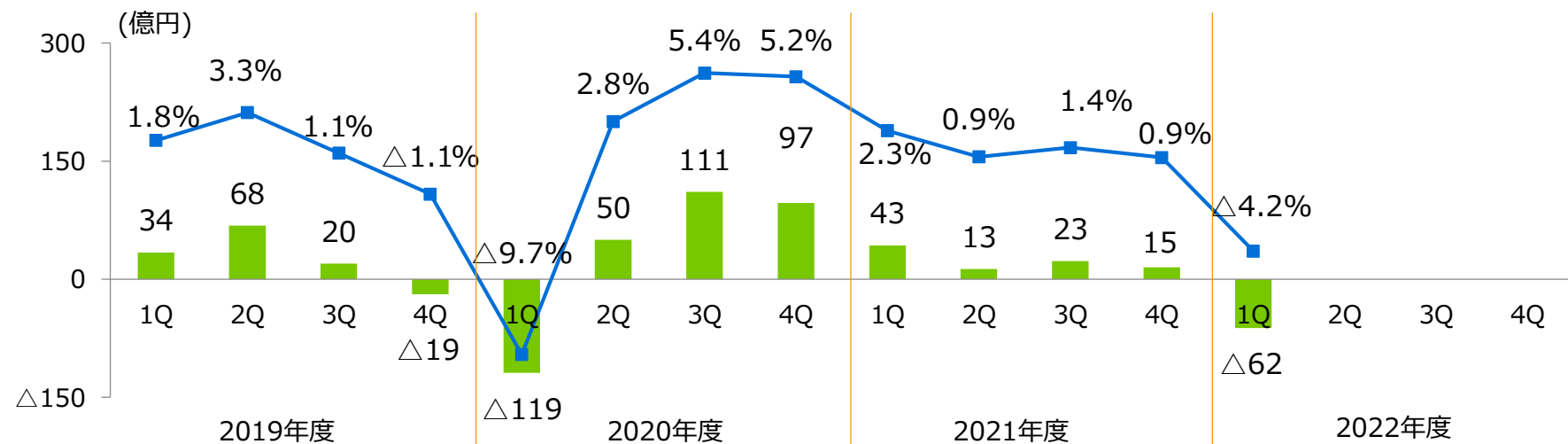


参考2) 四半期推移 日本 台数・売上収益・営業利益・営業利益率

シート生産台数/売上収益



営業利益/営業利益率

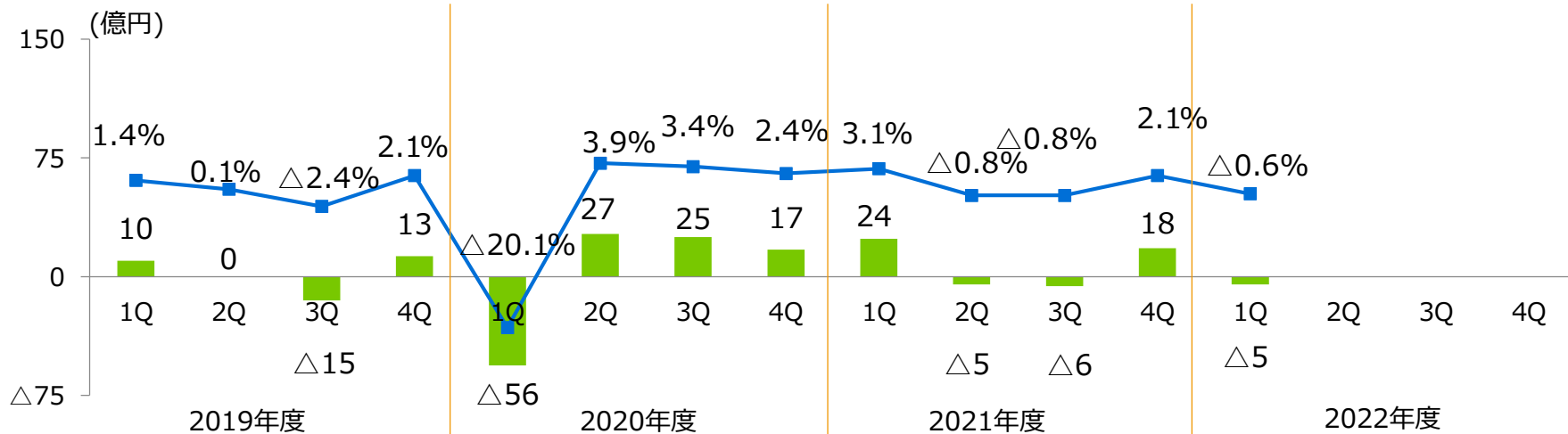


参考3) 四半期推移 北中南米 台数・売上収益・営業利益・営業利益率

シート生産台数/売上収益

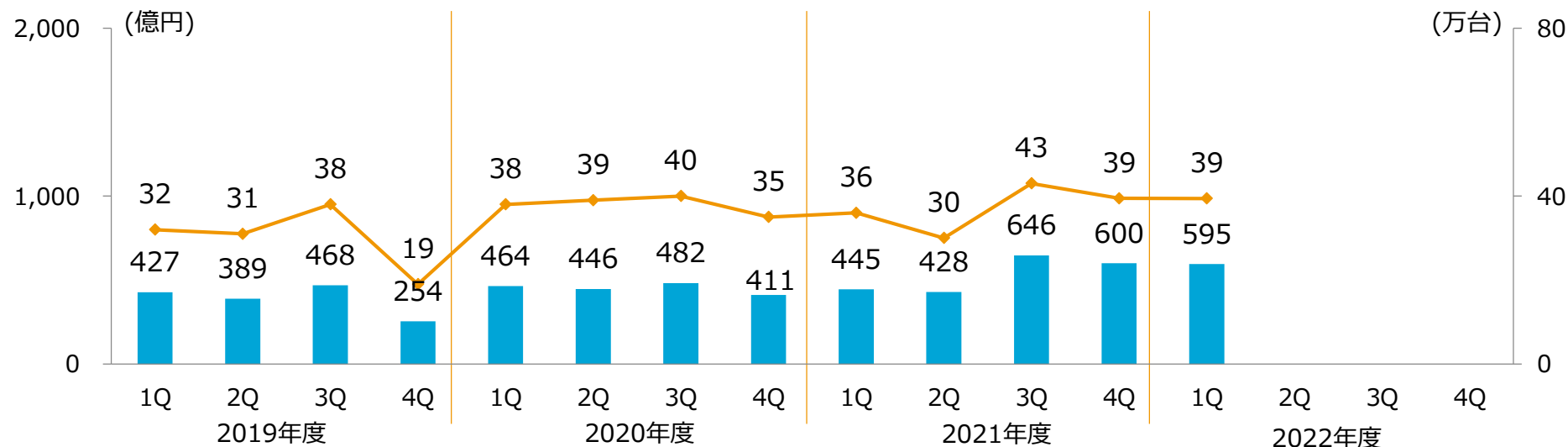


営業利益/営業利益率

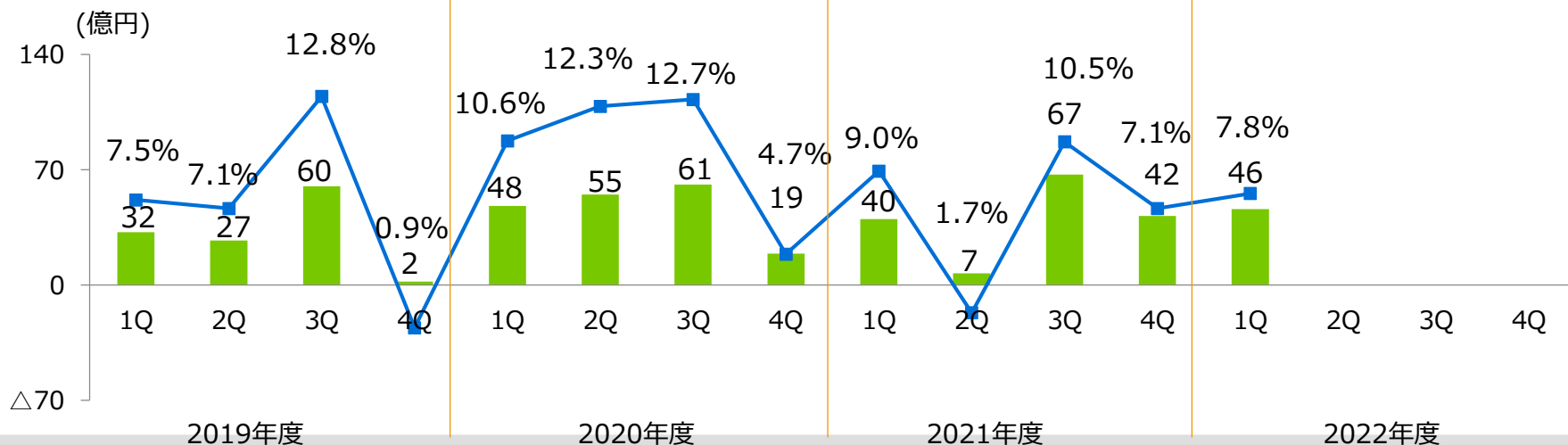


参考4) 四半期推移 中国 台数・売上収益・営業利益・営業利益率

シート生産台数/売上収益

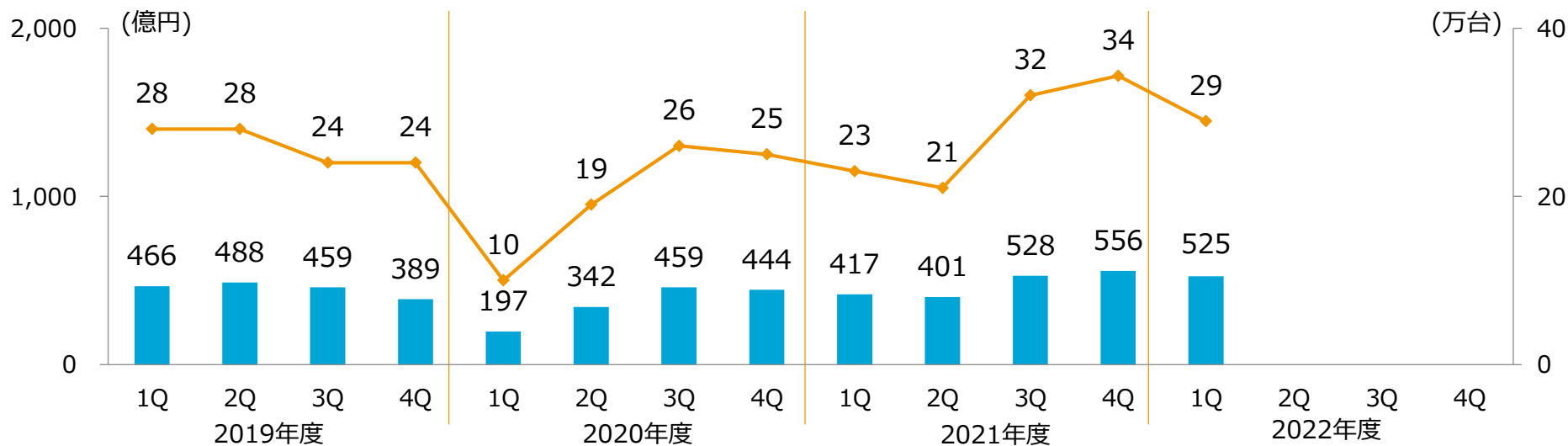


営業利益/営業利益率

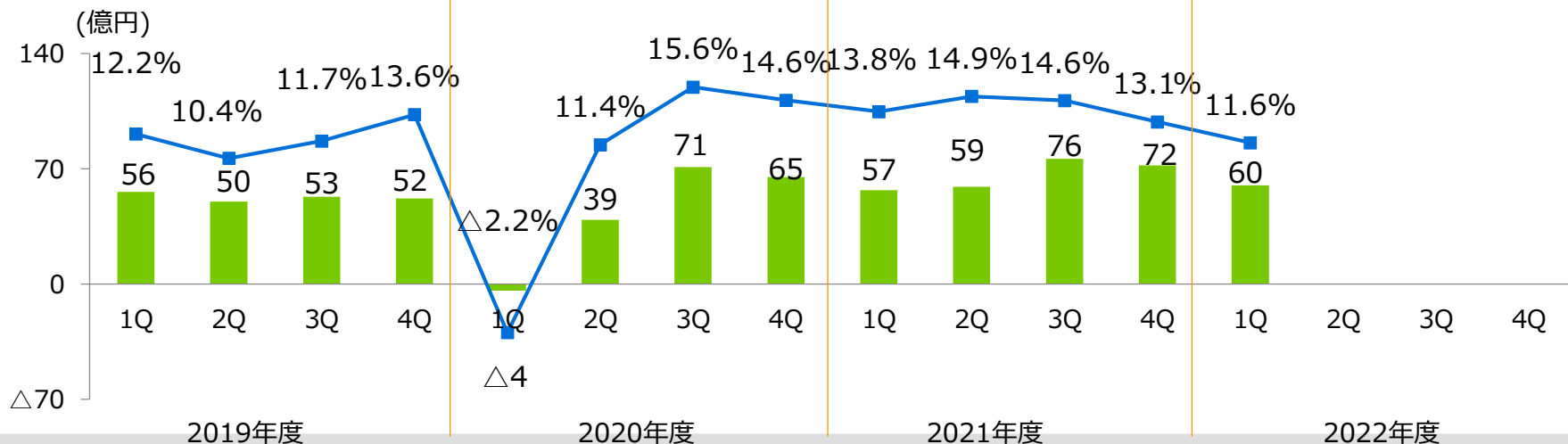


参考5) 四半期推移 アジア・北アニア 台数・売上収益・営業利益・営業利益率

シート生産台数/売上収益

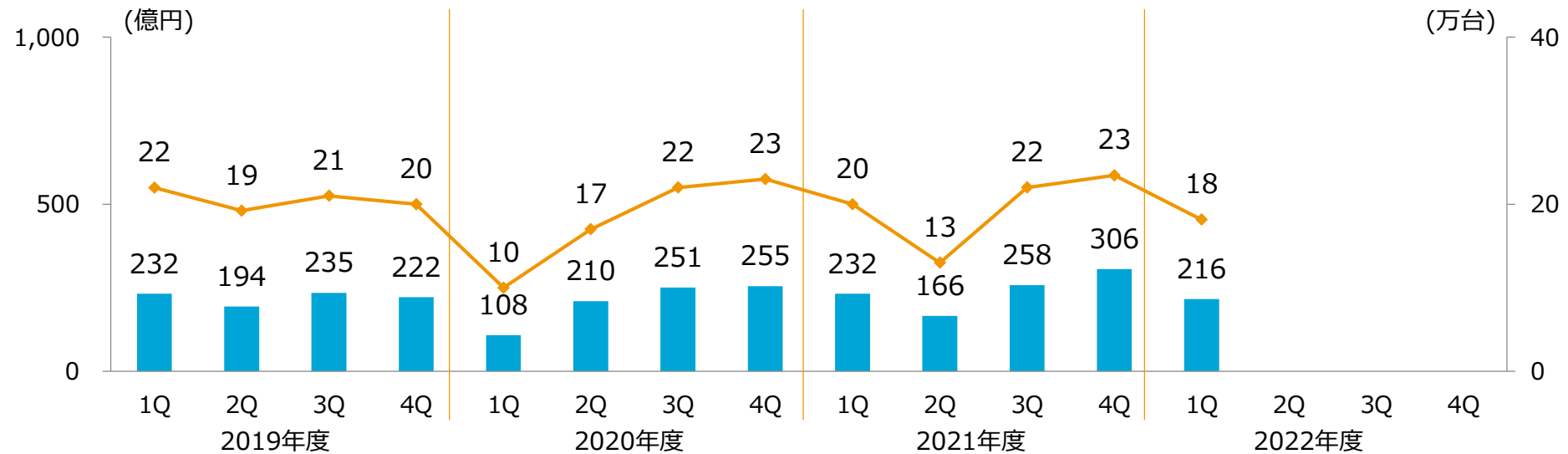


営業利益/営業利益率

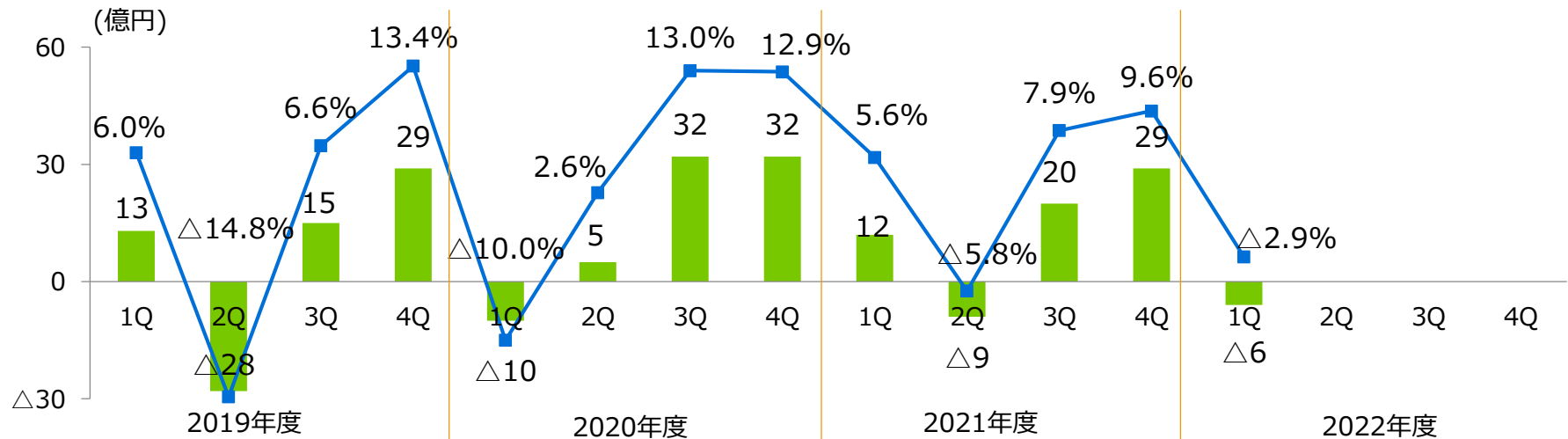


参考6) 四半期推移 欧州・アフリカ 台数・売上収益・営業利益・営業利益率

シート生産台数/売上収益



営業利益/営業利益率



参考7) 2022年度通期業績予想 (前回公表時との比較)

営業利益の増減分析

(億円)

	前回 公表時	今回 公表	計	増 減	
				社内努力	環境変化
21年度 実績	602	602	-	-	-
操業度	476	316	△160	-	△160
構成差	△128	△134	△6	+33	△39
合理化 吸収	31	32	+1	+1	-
諸経費	△215	△199	+16	+16	+0
為替	△6	27	+33	-	+33
その他	20	△34	※ △54	+5	△59
22年度 予想	780	610	△170	+55	△225

※雇用維持費用の解消
 前回公表 +58
 今回公表 +19
 差 △39



<注意事項>

本資料に記載されている将来に関する業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想値であり、不確実性やリスクを含んでおります。

そのため 実際の結果は様々な要因によって業績予想と異なる可能性があります。